

■東京・大阪でセメント工場親子見学会を開催

セメント協会は、2016年の春休みに科学技術館(東京)、大阪科学技術館(大阪)に協力し親子見学会を実施、太平洋セメント(株)埼玉工場、埼玉太平洋生コン(株)浦和工場(それぞれ東京)、住友大阪セメント(株)赤穂工場(大阪)でそれぞれ開催した。

科学技術館は、3月29日、同館会員組織「サイエンス友の会」の施設見学会として実施した。多数の応募の中から抽選によって選ばれた小学3年生から6年生までの親子ら29名が参加した。

好天に恵まれた当日は、西武池袋線・飯能駅に集合後、バスに乗り込み出発。途中の車内では協会職員手作りの紙芝居形式による基礎知識の学習を行った。埼玉工場到着後は高木 功工場長から歓迎の挨拶があり、その後、担当者から工場の概要やセメント産業が廃棄物のリサイクルに適している理由などの説明とアニメーションを使ったセメントの製造工程や都市ごみのセメント資源化システム、セメント工場と火力発電所との関わりなどの説明を受けて、工場内を見学した。参加者は初めて見るキルンやプレヒータなど、工場設備の巨大さに圧倒された様子であった。またプレヒータタワーの最上階(写真1)では、長距離ベルトコンベアによって、石灰石が鉾山から直接工場に運ばれてくる様子や、工場内の主要設備の説明を実物を見ながら受け、地上約58mの眺望を楽しみ、見学の最後には実物のバラトラック



写真1 プレヒータタワーからの眺望に目を瞪る

車への体験乗車などを行った。質疑応答の時間では、火力発電所に関する質問やごみの将来の分別方法など多種多彩な質問が子どもからも保護者からも活発に出され、興味は尽きないようであった。

昼食休憩をはさみ、次の見学先である埼玉太平洋生コン(株)浦和工場にバスで移動。生コン工場では、工場の概要や生コンの製造方法など、担当者の熱心でわかりやすい説明の後、自動化された集中操作室で、生コンを製造するところからアジテータ車に積み込むまでの様子などを見学、続いて実際に製造した生コンを使ったスランプ試験や空気量試験の様子や、コンクリート供試体の強度試験を見学したあとアジテータ車の運転席に座って記念撮影をしたり、ドラムの回転調整を体験した(写真2)。最後に質疑応答が行われ、好奇心も満たされたところで見学会は終了。それぞれ春休みの思い出を胸に帰途に着いた。

一方、大阪科学技術館は、4月5日に春休みイベントの一環として開催、同館と同館会員組織「サイエンスメイト」から多数の応募があり、抽選によって選ばれた小学3年生から中学3年生までの親子ら36名が参加した。

当日朝、大阪市西区の鞆公園に隣接する同館に集合した一行はバスで一路兵庫県赤穂に向け出発、こちらでも車内でセ協職員によるセメントとコンクリートの基礎知識の学習が行われた。途中、コンク



写真2 街で見慣れたアジテータ車の仕組みを学ぶ



写真3 実験教室で本物のセメントを体験

リート構造物の好例として神戸市須磨区の明石海峡大橋に立ち寄り、橋を支えるアンカレイジの役割について実物を前に勉強、巨大なコンクリートの塊であるアンカレイジと記念写真を撮る姿も見られた。

見学先の住友大阪セメント(株)赤穂工場では、大勢の工場スタッフの出迎えを受け到着。工場内の会議室で青木秀起工場長による歓迎の挨拶に続き、工場紹介DVDを鑑賞、工場の仕組みや役割、セメントのできるまでを学習した。

昼休みをはさみ、午後からは工場スタッフによる実験教室でセメントの実物を体験(写真3)したあと、工場見学に出発。キルンバーナー付近から高熱



写真4 高温のキルン内を覗く

で稼働中の窯内部を見学(写真4)し、タワー上部に上がり工場全体を見渡ししながら、セメントサイロや作業中の船舶、各種設備の説明を受けた後、工場内の電力を支える発電所で巨大なタービンとその音を体験した。

見学会の最後には質疑応答がなされ、子どもたちや保護者からの質問に対し、スタッフらによる的確な回答が行われた。帰り際には実験教室で彩色したモルタル製の赤穂市のキャラクター・陣たくんの人形を手渡され、工場スタッフらと陣たくんに見送られるなか大阪への帰途に着いた。

「平成28年熊本地震」が発生

4月14日21時26分、熊本県益城町を震源にマグニチュード6.5、最大震度7の地震が発生した。続いて16日1時25分には本震と見られるマグニチュード7.3、最大震度7の地震が発生、またこれ以降も800回を超える震度1以上の余震が続いている。なお、今回の地震で熊本県熊本地方、同阿蘇地方、大分県など各地で死者49名、安否不明者1名、負傷者1350名をはじめ避難者は一時、9万人以上にのぼった(4月26日現在、熊本県および警察調べ)。

この一連の地震により、被災地一帯では揺れや土砂災害などで多くの家屋倒壊や道路が壊れるなどの被害やライフラインの寸断が報告されているほか、九州新幹線では回送列車の脱線や各種設備が大きな被害を受けたことから一部区間で運休が続き、在来線や高速道路など各交通機関にも不通区間が見られるなど大きな影響をもたらしている。これを受けて政府は4月25日に激甚災害に指定、今後のさらなる復旧・復興に注力する姿勢を示した。